

5 人と人とのつながりで築く松浦川

洪水に対する減災、河川やダム湖の水質改善、さらには河川へ流入する流木やゴミの問題など、いずれをとっても河川そのものにおける対症療法的な対策では、その効果に限界があるばかりか、多くの時間と費用を要し、非効率なものとなってしまう可能性があります。また、松浦川流域には歴史的・文化的な施設や機能、地域住民の営みの結果として形成されてきた良好な風景が数多く残されており、これらの財産を後生に継承していくためには、河川単独での取り組みではなく、流域として捉えた中での河川の位置づけや役割を再認識する必要があります。これらのことから、松浦川を良好な状態で維持・整備していくためには、河川のみならず、源流から河口までの流域全体を視野に入れた取り組みが必要となります。

このため、治水、利水、環境の調和、地域の防災力向上、河川の水質改善、ゴミ対策、自然環境保全、河川の利活用促進等の様々な取り組みにあたって、従来の河川行政の枠組みを超え、それぞれを所管する関係行政機関、総合行政を担当する佐賀県、関係市はもとより、広く地域住民、市民団体等の多様な主体が連携、さらには協働できるよう取り組みます。

また、関係機関、地域住民との連携、協働が円滑に進むよう、地域の将来を担う人材の育成や発掘にも取り組むとともに、地域住民の関心を高めることを目的として、様々な情報について流域内の関係者や地域住民に積極的に発信し、情報の共有化に努めます。

なお、流域全体を視野に入れた取り組みにあたっては、P D C Aサイクルの手法を用いて、これまで実施してきた取り組みを適切に評価、改善しながら、歴史と文化を継承し、安らぎと緑豊かな松浦川となるよう努めます。

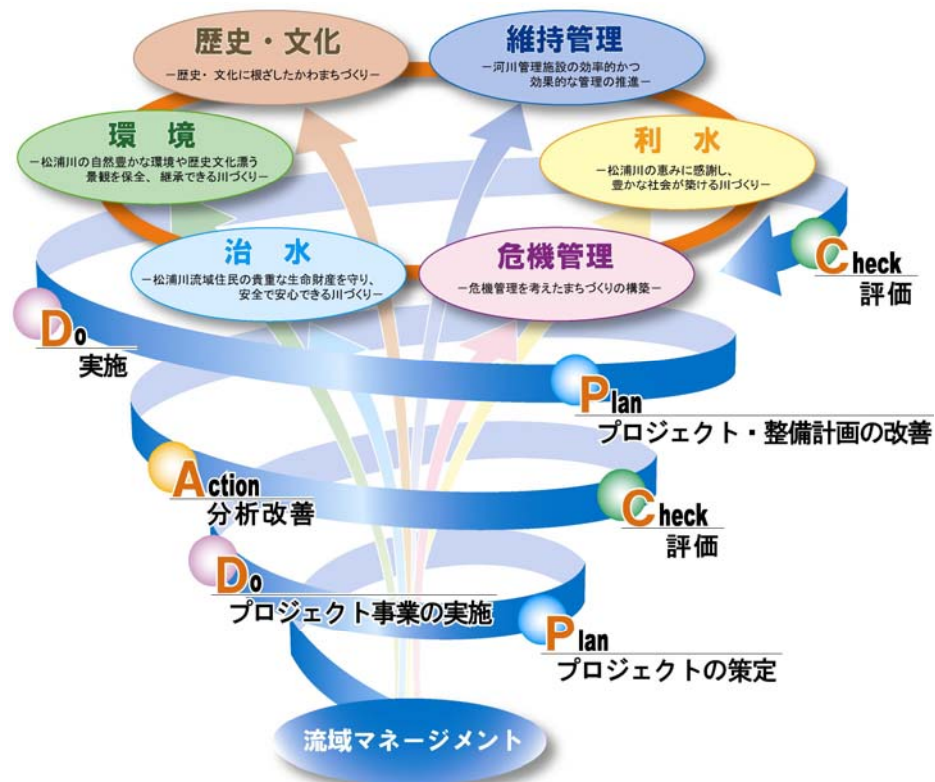


図 5.1.1 流域全体を視野に入れた取り組み（概念）

5 人と人とのつながりで築く松浦川

5.1 関係機関、地域住民との連携・協働

5.1 関係機関、地域住民との連携・協働

松浦川を良好な状態で後生に引き継ぐため、関係行政機関、佐賀県、関係市はもとより、広く地域住民、市民団体等の多様な主体が連携、さらには協働できるよう取り組みます。

◆ 災害に強いまちづくり

松浦川では、「破堤」「越水」等による家屋の浸水被害の防止を目標とした河川整備を実施することとしており、また、計画規模を超えた洪水も想定されることから、浸水した場合の被害を最小限にとどめる情報発信、防災まちづくりの支援等のソフト対策の強化が強く求められています。一方、河川整備により安全度が向上した低地は高度に利用され始めており、今後も河川整備の進展に伴い氾濫域での土地利用の高度化が懸念されます。

土地利用の高度化は、まちづくり等地域の活性化に寄与する一方、場所によっては洪水時の被害を大きくする結果となることが想定されることから、洪水時の被害を最小化することを目的として、防災まちづくりの支援等これまで取り組んでいるソフト対策の更なる充実を図るとともに、氾濫域での土地利用のあり方などの流域内での対策についても、県や市など関係行政機関と連携した取り組みを実施していきます。



写真 5.1.1 山本地区防災まちづくり

◆ 歴史と文化を継承した緑ゆたかな松浦川づくり

松浦川流域には、先人の知恵と工夫により残された歴史的・文化的な施設や機能、豊かな自然環境が、松浦川らしい風景として残されていることから、これらがかげがえのない財産として共有し後生へ残すため、関係機関や地域住民との連携・協働により、地域間の交流や河川の利活用を促進し、人と川のとつながりの再構築に努めます。

佐賀県では、佐賀水ネットとして、河川を軸として活動する市民団体の情報共有・意見交換の場としてネットワークが形成されており、地域の水環境の保全・再生への取り組みが継続的に行われるなど、市民団体による連携が進められています。松浦川においても、佐賀水ネットへの参加を通じて活動の連携がなされているところですが、市民団体のみならず、自主的に河川へかかわり活動する地域住民の方々まで関わりを持つ流域連携の向上が不可欠であると認識しています。



図 5.1.2 佐賀水ネット

このことから、観光都市唐津の観光拠点としての利用、ボートなどスポーツ・レジャー利用、

アザメの瀬など学習空間としての利用など、人と川の交流の場の保全・再生を図るとともに佐賀水ネットの連携強化や新たな情報ネットワークとして松浦川流域懇談会（仮称）を設置するなどにより、流域連携の向上を支援します。

また、流域連携が向上されるよう、流域・河川に関する情報を関係機関や地域住民と広く共有し、防災学習、河川の利用に関する安全教育、環境教育などの充実を図るとともに、住民参加による河川清掃の推進等、河川愛護の啓発活動等に取り組みます。

これらにより、地域住民が松浦川に関わる機会を設け、従来の河川管理者が行ってきた河川管理から、「憩いの場として愛される松浦川を地域住民とともに」との認識に立った地域住民との協働による川づくりへの転換を図ります。



図 5.1.3 連携・協働による川づくりイメージ

5 人と人とのつながりで築く松浦川

5. 1 関係機関、地域住民との連携・協働



魚の観察会



過去の災害に関する勉強会

写真 5.1.2 出前講座の実施風景

国土交通省で行う事業や施策について知って頂くとともに、皆様のご意見やナマの声を聞かせていただく場として「出前講座」を行っております。「出前講座」においては、職員が持つ知見を活かし、皆さんが持っている様々な興味・疑問・批判などに出来る限り、わかりやすくお答えします。そのため、講座の中には、小学生を対象とした入門編から、専門家などを対象とした上級編まで幅広く実施しています。



写真 5.1.3 小学校児童による水生生物調査

昭和 59 年より実施しているもので、川に親しみ、川を理解し、河川愛護や水質浄化への関心を持って頂けるよう、水生生物の生息状況の調査や簡易な水質調査を実施しています。



写真 5.1.4 地域住民による河川清掃活動

地域住民のボランティアによる河川清掃活動が、松浦川沿川で継続的に行われています。



写真 5.1.5 土井地区川辺の会

松浦川土井地区（徳須恵川合流点）において水辺検討会を開催し、土井地区の川づくりについて地元住民の方と協働して、計画立案から維持管理の進め方などについて活発な議論が行われています。



5.2 地域の将来を担う人材の育成・発掘

川は貴重な自然体験の場であり、子どもたちの感性を磨き、想像力を養う最適の場であるといえます。最近、外で遊ぶ子供達が少なくなったなどよく耳にしますが、川での遊びも例外ではなく、川を遊びの場とする子供達＝『川ガキ』の姿を見かけなくなりました。昔は、川を通じて学び・遊ぶことが、普通で当たり前の風景だったといえます。こうした「川離れ」は、全国的にも広がっており、問題視されています。

今後、川づくりを進める上で、川遊びや水生生物調査、イベント、環境学習など水辺の自然体験活動等の機会を提供し、将来の地域を担う子供達への環境学習を積極的に支援します。また、これらの自然体験活動の指導者育成・発掘に取り組むとともに、これまで度重なる水害や渇水を経験した地域住民がもっている知識や知恵等を伝承していく「語り部の達人（仮称）」といった人材の育成にも取り組みます。

また、今後の河川の調査、計画、工事、管理のそれぞれの面における河川環境の知識と現場経験を向上させるため、長期的な視点で河川環境に精通した河川技術者の育成に取り組みます。



写真 5.2.1 川遊びに興じる子どもたち

(松浦川 28/600 付近：桃川親水公園、伊万里市松浦町)
親水公園横の松浦川で川遊びをしている子どもたちが多くみられます。



写真 5.2.2 市民団体主催のリバースクールの様子

(厳木川 7/000 付近：唐津市厳木町)

厳木川町切地区を中心に活動している市民団体が主催し、小学生を対象としたリバースクールを開催し、水辺の自然体験の場を提供しています。

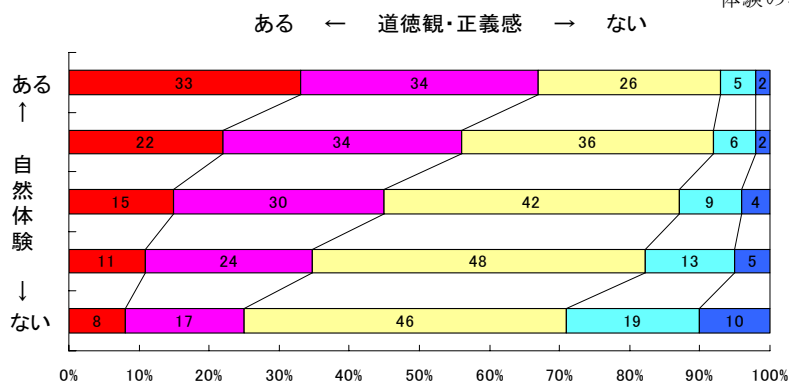


図 5.2.1 自然体験のあるなしによる道徳観・正義感の違い

文部省（現文部科学省）（青少年教育活動研究会）子ども体験活動に関する調査（H10.7）より、自然体験のある子ほど道徳観・正義感が身に付くという結果が得られ、川や山、海など自然が子どもたちの人格形成に良い影響を及ぼしていることが分かります。



写真 5.2.3 河川実地研修の講義風景

5.3 地域住民の関心を高めるための取り組み

河川の適切な管理を進めるためには、川に一番身近な存在である地域の声に耳を傾け、知識を吸収し、適切に計画へ反映・実践していくことが必要です。このことは、長期的な視点からみても、地域による河川管理につながることもなります。松浦川中流部に位置する「アザメの瀬」では徹底した住民参加による地域との対話をはじめ、合意形成に至るまでのプロセスを大切に、計画立案から設計・施工までを実践した松浦川を代表する先進的事例となっています。今後の川づくりにおいても、アザメの瀬での取り組みを模範としながら、川づくりを進めていきます。

また、松浦川の特性と地域風土・文化を踏まえ、「松浦川らしさ」を活かした河川整備を進めるために、ホームページ・広報誌やラジオ、テレビ、新聞などメディアを利用して広く情報提供し、住民との合意形成に向けた情報の共有化、意見交換の場づくりに取り組むなど関係機関や地域住民との双方向コミュニケーションを推進していきます。



図 5.3.1 広報活動の取り組みイメージ

5 人と人とのつながりで築く松浦川
5.3 地域住民の関心を高めるための取り組み



図 5.3.2 武雄河川ホットニュース

平成 16 年 2 月より、佐賀県を潤す松浦川・嘉瀬川・六角川・有明海岸のホットな情報を発信しています。



写真 5.3.1 防災・減災フォーラム 2007in 佐賀

『水害経験から学ぶこれからの安全安心まちづくり』をテーマに、地域住民による防災まちづくりの取り組み発表や、『地域に伝えたいこと』と題してパネルディスカッションが行われました。



写真 5.3.2 9.16 水害座談会 in 南波多

平成 18 年 9 月 16 日の台風 13 号に伴う水害とその対策などを再認識するとともに、過去の水害の経験者から当時の状況やその対策を学び、今後の地域の防災・減災について考える機会として水害座談会を開催しました。



写真 5.3.3 住民参加によるアザメの瀬検討会

アザメの瀬自然再生事業では徹底した住民参加による計画立案・実施を行っており月に 1 回程度の割合でアザメの瀬検討会を実施しています。平成 14 年 12 月には地元住民組織「アザメの会」が自主的に立ち上がり、アザメの瀬に関する様々な活動が行われています。



写真 5.3.4 中山地区水辺検討会

厳木川中山地区において水辺検討会を開催し、中山地区の川づくりについて地元住民の方と協働して、計画立案から維持管理の進め方などについて活発な議論が行われています。



写真 5.3.5 厳木川魚類調査

地域住民の方や漁協関係者などと協働して魚類調査を実施し、在来種の保全や外来種に関する調査に取り組んでいます。

5 人と人とのつながりで築く松浦川

5.4 流域全体を視野に入れた取り組みにあたって

5.4 流域全体を視野に入れた取り組みにあたって

流域全体を視野に入れた取り組みにあたっては、PDCAサイクルの手法を用いて、これまで実施してきた取り組みを適切に評価、改善しながら、歴史と文化を継承し、安らぎと緑豊かな松浦川となるよう努めます。

そのために、松浦川水系河川整備計画の柱である治水、利水、環境、歴史・文化・地域連携、維持管理、危機管理等のそれぞれの目標を常に意識し、河川整備計画等の事業実施の柱となる計画の策定から実施、モニタリングを経て、再度計画の見直し等へフィードバックする大きなサイクルと個別事業・維持管理、許認可等の様々な段階における小さなサイクルを組み合わせ、継続的に改善がなされるよう努めます。

なお、PDCAサイクルの全ての段階において、地域住民、市民団体、学識経験者や関係機関等と連携し協働することにより質の高い川づくりを目指します。

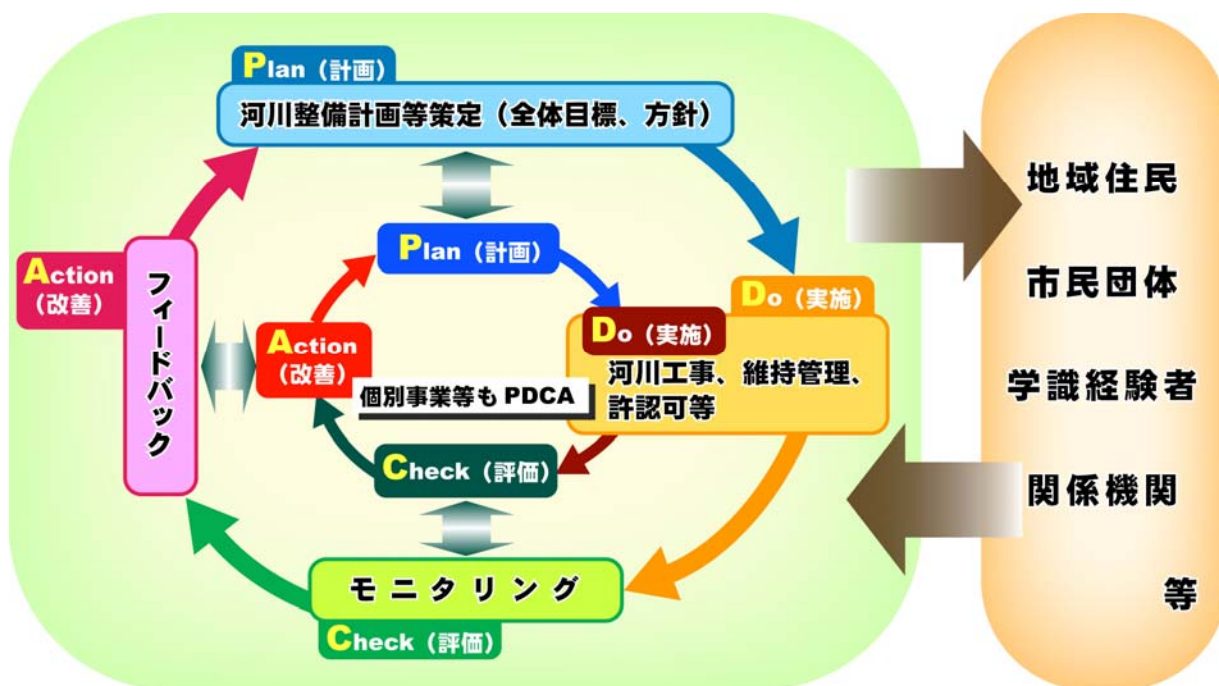


図 5.4.1 松浦川の川づくりの進め方イメージ図